家庭数配布

春日部市立桜川小学校

学校だより

10月号　　令和２年１０月１日発行

春日部市大衾４９６－１　℡７４６－６２３８　児童数６４９名（9/30 現在）
桜川小HP　https://schit.net/kasukabe/essakuragawa/

学 校 教 育 目 標
○進んで学ぶ子（かしこく）
○思いやりのある子（やさしく）
○体をきたえよく働く子(たくましく)

地域と共に　はぐくむ
やさしさと笑顔あふれる
活力ある学校

１０月の生活目標

「始まりと終わりの時刻を守ろう」

※時間を大切にすることが目標達成への第一歩。「時は金なり」ですよ。

「正しく鉛筆を持つ」ことの大切さ

暑かった夏も過ぎ、大変過ごしやすい季節となりました。新型コロナウイルス感染防止の観点から様々な教育活動を制限してきましたが、先月示された文部科学省「学校生活の新しい生活様式 Ver.4」においても「感染リスクの高い活動も適切な感染対策を行った上で実施」と示されたことから、対策を講じながら少しずつ活動を元に戻していきます。まずは、清掃、クラブ活動、さわやかタイムを再開します。今月 17 日の「体育発表会」に向け、練習も始まりました。共通の目標のもと、協力して一生懸命に取り組む桜っ子の姿がとても輝いて見えます。

さて、教室訪問をしていると、子供たちのよさや頑張りを見つけることができるとともに、課題に気づくこともあります。一つ、課題に感じていることは「鉛筆の持ち方」です。鉛筆の持ち方がおかしくても字は書けますし、中には、変な持ち方をしていてもきれいな字が書ける子もいます。あまり気にしなくても大丈夫では？と思うかもしれません。しかし、書字指導に関する著書を多数執筆している、神奈川県立保健福祉大学の　笹田　哲教授は「単に運動ができる体ではなく、姿勢よく椅子に座り続ける、素早く立つ、上手にバランスを取る、指先を使うなど、基本の動きや姿勢を保つことができる体づくりが重要」であり、「基本の動きの中で特に気を付けたいのが、鉛筆の持ち方だ」と述べています。鉛筆を正しく持つと指に負担がかからず、長い文章を書いても疲れにくいですし、「はね」、「はらい」も正しく書け、きれいな字が書けるようになります。逆に、正しい持ち方をしていない と「疲れやすい、肩が凝るといった症状が出て、結果的に学習の効率が下がる」そうです。少し古いデータですが、文部科学省が 1998 年に行った調査によれば、鉛筆を正しく持てている子供の割合は、どの学年においても１割未満だったそうです。そして「東大合格生のノートはどうして美しいのか」の著者　太田あや氏は、その著書の中で「東大生のなんと８割が、鉛筆を正しく持っている」と紹介しています。やはり鉛筆を正しく持つことは大切だと考えます。今一度、お子さんの鉛筆の持ち方を見ていただければ幸いです。（校長　加藤大二）

☆暑さに負けずにがんばる桜っこ
～体験を通して「学び」を深めます～

春日部税務署による租税教室（６年）

ゴスペル体験学習（なかよし学級））

体育発表会に向けての練習（３年）

（三菱鉛筆株式会社 HP より）

おやじの会の方が、８月８日と２９日に学校の除草やジャンピングボード修理の作業をしてくださいました。おやじの会の方、本当にありがとうございました。

８月に小塩昌輝先生が春日部市立幸松小学校へ異動しました。また、なかよし２組担任の星裕道先生が退職されました。１学期の短い期間でしたが、お世話になりました。１０月１日から新たに古川詠美先生と支援員の平井匠先生が着任されます。よろしくお願いします。

古川先生
←

平井先生
→

家庭数配布